

みなさんは三月のフジテレビ六十周年記念ウィークでの「大奥～最終章～」をご覧になりましたか？放送時間までの間、フジテレビでは大々的に番組宣伝をしていました。私は日本の歴史にとっても興味があるので、もちろんその宣伝を見た瞬間に録画予約をしてしまいました。

この番組の内容は、徳川御三家の紀州藩藩主、後に「目安箱」の設置など、「享保の改革」を行った、江戸幕府八代将軍「徳川吉宗」の側室の「お久免の方」が六代将軍「家宣」の妻である天英院や七代将軍「家継」の母である月光院からの嫌がらせに耐えながら、大奥の頂点へ立つというものです。しかし、私はこの番組を観ながらあることに気づきました。それは、この話の中で「月光院」は悪役となっていることです。番組ホームページで人物紹介を調べてみると、「大奥ナンバーワンの座をねらい、常に天英院と対立しており、大奥の頂点に立つだろうお久免の方に嫌がらせをする」とありました。しかし私の大好きな番組の一つであるNHKの「歴史秘話ヒストリア」で数年前に放送された大奥の特集では、「月光院」は優しく、罪を犯した自身の女中を必死に守ろうとした、と紹介されていました。

「月光院」は実際に江戸時代の大奥に実在した人物ですが、なぜ一人の人物の印象がここまで違ってしまっているのでしょうか。私は、その人物の姿や生き方を抜き取った時期や行動に対する解釈の違いだと思います。フジテレビの大奥はNHKの大奥の話よりもものちの話です。きっとこの場合は注目した時代が違って、その時期に生きていた「月光院」の行動やエピソードから人物像を想像してドラマを作り上げたためではないかと思いました。二年生の時に、国語の授業で『『正しい』言葉は信じられるか』という説明文を勉強しましたが、その中で「言葉にだまされてはいけない」というものがありました。その時、言葉だけではなく見た目や行動も同じことだと思いました。一人の人物の一部分だけを見て判断するのではなく、より色々な方向からより深く全体を知ることによって、自分の中に勘違いした人物像を作り上げないようにすることが出来るのだと思います。「月光院」の例のように、どんなことでも一つの出来事だけで印象を決めつけるのではなく、たくさんの情報を比較することによってより正しい判断をすることが出来るのだと思いました。

私たちも友達付き合いをしている中で次のようなことがあるのではないのでしょうか。例えば、自分にどうしても苦手な人がいるとします。そのような場合、私たちはその人に対しての苦手な一部分に固執して見てしまっている可能性があります。「うるさい人だ」と思っていた人でも絵が上手かも知れません。「面倒くさい人だ」と思っていた人でも、何事にも努力をおしまない人かも知れません。苦手だと思っていた人に対して、一部分だけではなく全体をみることによって相手と認め関係を縮めるきっかけになるのではないのでしょうか。

大奥をみることによって一人の人物に対する捉え方の違いに疑問を持ち、理由を考えることによって、どうしても悪いところや苦手なところだけ強く感じてしまい、「なぜ？」「どうしてなのか」とイライラしてしまう今までの自分の考え方や行動をとっても反省しました。これからは、一方的な思いや少ない情報で相手の人物像を決めつけてしまうことなく、しっかりと全体を見て、相手を認めることの出来る人になれるよう努力していきたいと思っています。